



FP Topics

= 生命保険の考え方について =

2021年3月号

年度末の忙しい時期に引越しが重なったため、いろいろ後手後手になってしまい、かなり不自由な環境を強いられていました・ ・

いちばん困ったのは3月半ば過ぎまで、ネット回線が開通しなかったことです。諸事情により、NTTの電話回線がマンション屋内に引き込むことができず、すったもんだの結果、有線でネットと電話を賄うこととしました。

電話番号が上記の通り変更になっておりますので、ご確認よろしくお願い致します。

さて、今月は“生命保険の考え方”について特集してみたいと思います。FP事務所運営における、私のポリシーとして、金融商品の販売はしない！

というものを掲げておりますので、生命保険に関して、私サイドからの発信は極力避けていました。しかし、最近のご相談では、生命保険の見直しに関するご相談が多くなったように感じます。

何回かに分けて、生命保険に関する考え方（持論）を発信したいと思います。

= 生命保険の基本形は3つだけ =

世の中には、たくさんの生命保険会社が存在し、たくさんの保険商品が存在します。おそらくそれらの保険商品について、正しく理解されている方はそんなに多くいらっしゃらないと思われます。

保険商品はいろいろな商品名がつけられ、その特色もバラエティーに富みますが、基本的な形は次の3つしかありません。



1. 定期保険（死亡保障保険）



★一定期間（定期）の死亡保障

★保険料は安い

★掛け捨て保険（貯蓄性なし）

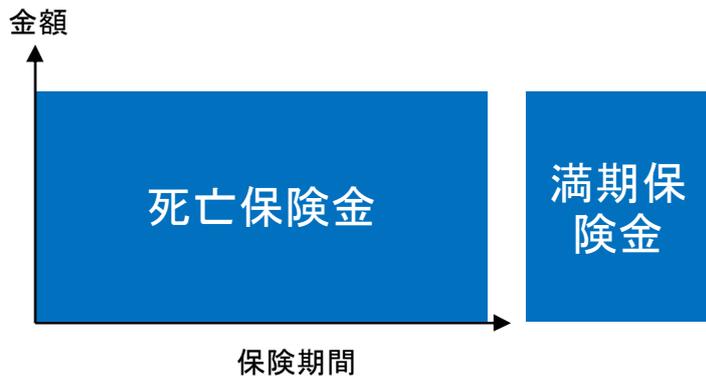
定期保険とは、読んで字のごとく保障期間に定めのある生命保険です。基本的には掛け捨て保険であり、貯蓄性はありません。終身保険等の貯蓄性のある生命保険に比べて安い保険料で死亡保障を付保することが可能です。後述しますが、子どもの成長に合わせて定期保険を上手に活用することで、無駄な保険料を削減することが可能です。

日本の生命保険会社では、終身保険と医療保険を組み合わせたセット商品が多くみられます。セット商品は、年齢ごとの更新により保険料が高額になっていくのが特徴です。

長期平準定期保険という、貯蓄性のある定期保険も存在しますが、法人における役員退職金スキームのような、戦略的保険設計等に主に用いられるようです。その昔には、逡増定期保険など節税効果が異常に高い保険商品も存在していましたが、現在ではそのような節税に有用な保険商品は、難しくなっているようです。



2. 養老保険（生死混合保険）



- ★一定期間の死亡保障と満期時の満期保険金受取
- ★保険料は高い（貯蓄性あり）
- ★死亡保障は一定期間
死亡保障と同額の満期保険金の受取可能

養老保険とは、生死混合保険といわれるものです。死亡保障保険は死亡または重大な障害を負った場合に給付されるものですが、生死混合保険は満期時に死亡保障金と同額の満期保険金額を受け取れる生命保険です。

死亡保障の保険期間は定期になっており、死亡保障は切れます。払い込み満期時まで保険料を支払うことで、保険契約の満期時に満期保険金を受け取ることができるのです。

満期保険金を受領できることから、保険料は高額になります。景気の良い時代では、企業の福利厚生に利用され、従業員さんの退職金目的で利用されていました。

3. 終身保険（死亡保障保険）



- ★一生涯の死亡保障（死亡保障は切れません）
- ★保険料は高め（貯蓄性あり）
- ★死亡保障は終身（死亡するまで）継続します

終身保険とは、終身（死亡するまで）死亡保障が継続する保険商品です。貯蓄性のある保険ですので、定期保険と比較して保険料は高めの設定になっています。その昔、バブル時代に加入された終身保険は『お宝保険』とされています。予定利率が高い時代でしたので、その利率が20数年来継続されています。終身保険はその貯蓄性から、貯蓄の苦手な方向けの強制的な貯蓄方法とされていましたが、現在の低金利時代には、終身保険による資産運用は効率的ではありません。

- ✓ 今月号では、保険の3つの基本形を紹介してみました。次回以降に各保険の特色・上手な保険の利用方法・各世代別の保険の考え方・契約者と受取人の課税関係・医療保険等について順次紹介していきたいと考えています。

実際に見た保険の裏話なども、できる範囲で?? 紹介してみたいと思います。

～今月の山便り～

年度末も近づき、昼間はめっきり春らしくなってきましたが、朝晩はまだまだひんやりとしています。写真は大峯奥駈道の縦走路です。ひんやりとした空気の中、とても神秘的な場所でした。実際に大峯を奥駈した際のものではありませんが、奥駈道では何かの存在を感じる不思議な空間が何度も出現したことを思い出します。実際に奥駈（吉野～和歌山）を歩いている時は、ほぼ人と遭遇しませんでした。一人で雨の山中を一日10時間超、ひたすら数日歩き続けます。時折、たくさんの人々による祈りのような幻聴が聞こえてくるのが度々ありました。祈りの声が聞こえてくると、写真のような祈りの場所（靡）が現れるのです。また、何回かに分けて大峯での不思議な体験を書いてみたいと思います。

